

## II 学校

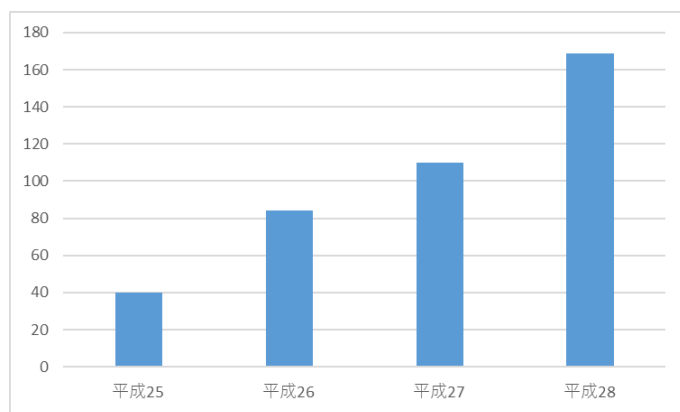
### 1. 読書へのきっかけづくり

#### (1) 主な取組み

- ① 学校での読書環境づくりのために子ども同士のブックトークの支援や本の紹介リストの配布などを行う。
- ② 学級文庫の充実（子ども読書パックの活用）学校図書館の利用方法の指導・調べ学習への支援
- ③ 調べ学習のための資料の充実（学習パックの活用）

#### (2) 成果

【子ども読書パックの貸出件数】



	子ども読書
平成25	40
平成26	84
平成27	110
平成28	169

平成23年度に開始された子ども読書パックの貸出ですが、年々増加傾向にあり、通年での利用が増えています。限られた予算の中で、子ども読書パック用の蔵書を購入し、寄贈本の活用を目指しながら、子ども読書パック用の蔵書の充実をはかっていきます。

【学習パックの貸出状況】

学習パックの利用件数は大幅に伸びているという状況ではありませんが、学習パックとして用意してあるリストを各学校に配布しているため、使いやすくなっています。平成29年度において日光ABは全公立小学校から利用がありました。

パック名	初出	冊数	H25	H26	H27	H28
日光A・B	H23	20	13	14	14	14
白川郷・高山	H28	20	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	1
富士山	H28	20	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	2
鎌倉	H23	40	4	5	2	4
仕事	H23	40	3	3	3	1
仕事（ティーンズ）	H23	40	3	1	1	1
世界の国々	H23	40	2	1	2	1
世界の国々～国別セット～	H23	40	2	1	0	2
戦争と平和	H23	40	2	2	3	1
日本の世界遺産	H23	40	0	1	0	0
日本の産業	H23	40	2	0	1	1
福祉A	H23	40	2	5	3	3
福祉B（H27よりAとBへ）	H23	40	<del> </del>	<del> </del>		2
昔の暮らし	H23	40	2	1	2	2
環境A（ごみ）	H23	20	3	6	3	3
環境B（H27よりAとBへ）	H27	20	<del> </del>	<del> </del>		4
記号・マーク	H27	20	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	2
自動車	H26	20	<del> </del>	2	2	1
すがたをかえる食べもの	H27	20	<del> </del>	<del> </del>		3
じどう車くらべ	H28	20	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	2
どうぶつのあかちゃん	H28	20	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	2
水	H26	20	<del> </del>	2	2	2
回数			38	44	47	53
冊数			1260	1400	1320	1460

### **(3) 課題**

- 学校からのブックトークの依頼が減り、子ども同士のブックトークの状況をつかみきれなかったため、教育指導課、小中学校との情報共有をしっかりとっていくことが課題です。
- 子ども読書パック・学習パックともに利用は浸透してきていますが、まだあまり利用されていない学校、中学校・高等学校への支援を模索していく必要があります。

## **2. 学校図書館**

### **(1) 主な取組み**

- ① 学校図書館の蔵書数、蔵書内容の充実
- ② 学校資料収集方針・選定方針策定の推進
- ③ 市内の全市立中学校に学校図書館専門員を配置
- ④ 利用しやすい学校図書館づくり（本や図書館に興味を持つよう、学校図書館でテーマ展示）

### **(2) 成果**

#### **【鎌倉市立小中学校図書館運営連絡協議会の発足】**

平成29年度より鎌倉市立小中学校図書館運営連絡協議会を発足させ、資料収集方針や、選定方針について、及び蔵書のデータ化などについて、協議しています。

#### **【利用しやすい学校図書館づくり】**

ポップや展示について、小学校から中学校、中学校から小学校への情報交換を行い、アイデアを共有しています。

### **(3) 課題**

- 鎌倉市立小中学校図書館運営連絡協議会において、蔵書内容の充実や資料収集方針・選定方針策定をはかっていく必要があります。
- 全市立中学校への学校図書館専門員の配置を実現するためには、学校図書館の存在意義を確立させていく必要があります。

## **3. 連携**

### **(1) 主な取組み**

- ① 調べものや蔵書管理を効率的に行うため、蔵書をデータ化
- ② 市図書館から小中高等学校図書館への学校貸出しのための搬送手段の充実
- ③ 小中学校で、本の読み聞かせやおはなし会、ブックトークなどの訪問サービスを実施。図書館の利用案内等のPRに努める。
- ④ 学校図書館と市図書館の連携の充実（小中学校の図書館部会・学校司書と市図書館の懇談会の開催など）

### **(2) 成果**

#### **【図書館から学校貸出の際の学校搬送の委託化】**

平成23年度から行ってきた図書館の学校搬送ですが、利用が増え、より利便性を高めるために平成28年度から搬送に関し、民間業者に委託しました。

### **(3) 課題**

- 鎌倉市立小中学校図書館運営連絡協議会において、蔵書のデータ化を進めていく必要があります。
- 学校への訪問サービスについては、依頼が一定ではないので、図書館からもPRを上手に行っていくことが課題となります。
- 高等学校との連携を図っていくために、具体的に働きかける必要があります。